

草場佩川の生涯

(数え年)

1787年	1歳	1月7日、多久邑主(領主)の家臣、草場泰虎の次男として生まれる(多久町)
1794年	8歳	東原庵舎に入学
1811年	25歳	古賀精里に従って対馬で朝鮮通信使に応接(5~7月)。この時期の記録が『津島日記』
1814年	28歳	東原庵舎の教授となる
1835年	49歳	藩校弘道館の教諭となる
1837年	51歳	第10代藩主・鍋島直正の伴読となる
1838年	52歳	市中と有田教導所で授業を開講
1850年	64歳	『婆心帖』を著す
1852年	66歳	『珮川詩鈔』を著す。確認されているだけでも7版も出ているベストセラー！
1853年	67歳	直正の世子(跡継ぎ)・淳一郎(直大)の読書指南、侍読を務める
1855年	69歳	幕府から江戸幕府直轄の学問所・昌平黉へ招聘を受けるが「老病故」と断る
1859年	73歳	弘道館の教授を拝命する
1866年	80歳	80歳の賀として鍋島直正、直大、小城侯などから祝の品が届けられる
1867年	81歳	緒方洪庵の墓碑銘を撰する。10月29日死去 墓所は称念寺(佐賀市呉服元町)と大古場墓地(多久町)にあります

の作成も進んでいるそうです。折しも今年、「朝鮮通信使」がユネスコの世界の記憶にも認定され、注目が集まっています。会でも、有志で『津島日記』に前後する著作の勉強会を行い、読み解いているところです。

また、佩川は教育者、役人としては勿論、学者としても大変優れており、あの吉田松陰も佩川の元を訪れています。

優れた才能を活かし、東原庵舎や弘道館の教諭を務め、人材育成にも貢献し、佐賀城下や有田でも庶民の教育に尽力しました。

鍋島直正公から心情を綴った手紙をいただくなど、大変信頼されていました。

その能力の高さから晩年には弘道館の教授となり、明治維新150年の時代を開く、佐賀藩の人材育成にも貢献しました。

ぜひ、郷土の偉人の魅力に触れていただきたいです。

これからの活動は？

市内のイベントと絡めながら佩川のことをPRし、興味・関心をもってもらえるように継続的に活動をしていきます。



婆心帖



津島日記



婆心帖(多久市郷土資料館蔵)



津島日記(多久市郷土資料館蔵)

柔らかい画

佩川の描く絵は、自分の個性を出し過ぎず、見たままに描き、色合いも美しく、遊び心もある人でした。人々を見つめる眼差しの優しさが伝わってきます。

卓越したセンス

佩川が残している作品の中には、今でいう絵文字が入ったものがあるなど、現代にも通じるようなセンスを当時でも持っていたようです。

メモ魔？

詩や画の脇に、その時の状況などが細かに書き込まれています。その添え書きがあるからこそ、当時の様子などがイメージできます。

自画像がない！

多くの画を残した佩川ですが、自画像がありません。他の人が描いたものもなく、その姿は想像の域を出ません。しかし、作品の中に「佩川の自画像では？」と思われるものがありますので、ぜひ探してみてください。

佩川の作品を見に行こう！

没後150年 奇才の遺産
草場佩川展 開催

普段は見るできない作品も多数展示しています。展示内容は会場で異なります。ぜひ、郷土の誇れる先人の作品をご覧ください。

期間 12月22日(金)~2月4日(日) 場所 佐賀県立博物館・多久市郷土資料館

問い合わせ

多久市郷土資料館

☎75-3002